

1. 件名：福島第一原子力発電所3号機原子炉注水停止試験の実施に係る面談
2. 日時：令和4年5月10日（火）10時30分～12時00分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

澁谷企画調査官、松田室長補佐、横山係長、高木係長、高木技術参与  
技術基盤グループ シビアアクシデント研究部門

小野技術参与

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当2名（テレビ会議システムによる出席）

#### 5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社から、福島第一原子力発電所3号機における原子炉注水停止試験の実施について、資料に基づき主に以下の説明を受けた。

- 炉注水停止中及び定期炉注水直後のRPV内の燃料デブリの状態変化について
  - ✓ 炉注水停止中のRPV内の燃料デブリの状態について
    - ◇ 3号機の燃料デブリの存在比をRPV内1割、PCV内9割と評価しているが、保守的にRPV内1.5割、PCV内8.5割と評価した場合でも、RPV底部温度の上昇（90日後）は、RPV内1割での評価と比較しても10°C程度の上昇であると想定している。
  - ✓ 定期炉注水直後のRPV内の燃料デブリの状態変化について
    - ◇ 90日の試験期間中、RPV底部の温度上昇の傾きは徐々に緩やかになるため、今回の定期注水の間隔であれば、その間隔での温度上昇量は大きく変化せず、定期的な注水（注水1時間）によるRPV底部の温度上昇の温度変化についてもその変化量は小さいと評価している。
    - ◇ 定期注水時の蒸気発生リスクについては、2021年8月以降に行ってきた注水ラインの切り替え等の実績より、そのリスクは低いものと想定している。

○原子力規制庁は、上記説明内容について確認した。

#### 6. その他

資料：

- 福島第一原子力発電所 3号機 原子炉注水停止試験の実施について